2026 年度第 4 回価格審査会の開催について

2026 年度第 4 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2026 年 7 月 14 日(火)　10:00～12:00
場　　所	本部 6 F 大会議室
委　　員	松田　寛志　　日本工営株式会社　日本地域統括（兼）東京支店長 遠藤　和重　　一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長 鈴木　由香　　株式会社日本設計　コスト設計部長 星野　正　　東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括) 松本　尚佳　　東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長
当　　会	共通資材調査部　　部長：小林　法雅、次長：南　昌宏 建築調査部　　部長：高橋　俊一、次長：岩井 卓矢 監査審査室　　室長：黒澤　昭浩 調査統括部(事務局)　部長：大澤　勝、課長：竹屋　宏樹

□2026 年度第 3 回価格審査会議事録(案) 確認

□2026 年度第 4 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
1．「建設物価」8 月号、「Web 建設物価」8 月号 ・価格が上伸した資材（工事費） 【Web 建設物価】 異形棒鋼（札幌市ほか27都市）、H形鋼（札幌市ほか48都市）、等辺山形鋼（札幌市ほか48都市）、鋼板（青森市ほか38都市）、レディーミクストコンクリート（普通セメント使用）（滝川市ほか30都市）、コンクリート用骨材（青森市ほか61都市）、再生砕石類（函館市ほか26都市）、コンクリート型枠用合板（那覇市）、アスファルト混合物（長野Ａ地区（旧長野市）ほか24都市）、ビル用アルミサッシ（枠見込み７０ｍｍ）（北海道地区ほか8都市）、６００Ｖビニル絶縁電線（ＩＶ）（全国）、６００Ｖビニル絶縁ビニルシースケーブル（全国）（ＶＶＦ）（北海道地区ほか9都市）、配管用炭素鋼鋼管（ガス管）（全国）、配管用ステンレス鋼鋼管（溶接管）（全国）、鉄スクラップ（札幌市ほか52都市）ほか。 ・価格が下落した資材（工事費） 【Web 建設物価】 燃料油（札幌市ほか62都市）、非鉄スクラップ（札幌市ほか8都市）ほか。 2．比較資料 ・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	レディーミクストコンクリートやアスファルト混合物等の地場資材で、近隣地区の方が安価である場合が見られる。資材価格の上昇が長期化するなか、地区をまたいだ競争が激化している状況はあるか。	レディーミクストコンクリートは運搬時間、アスファルト混合物は温度管理の制約により遠距離輸送が難しく、地域を超えた流通は限定的である。一部では越境流通もみられるが、全体としては過度な競争が生じにくい状況にある。
質問 2	地場資材において越境して持ち込みが行われる地区では、取引先を手放したくないという理由で値上げに踏み切れない実態はあるのか。	越境流通がみられる地区では競争が生じやすく、コストが増加していても値上げを打ち出しにくいほか、値上げを打ち出しても需要家に受け入れられにくいため、価格転嫁が進まないケースもみられる。
質問 3	長期にわたる頻繁な値上げ傾向は、資材販売会社の経営にダメージを与えているのか。	値上げが浸透すれば売り手側の経営は安定するが、浸透しなければコスト増加分の吸収を余儀なくされ、経営への悪影響が生じる。影響は業界や取扱い資材、各社の在庫状況によって異なる。
質問 4	ステンレス鋼、アルミ圧延品の値上がりに対して「国際相場の上昇を背景に」と補足コメントがある。中東情勢の影響はあるのか。	ステンレス鋼はニッケル等の国際需給を反映して相場が上下するため中東情勢の直接的影響は限定的である。アルミは中東の主要メーカー工場がイランの攻撃を受け、国際相場が跳ね上がるなど中東情勢の影響を受けた。
質問 5	道路用砕石類において、倉敷市の割ぐり石が最大変動率 50%と大幅に上昇した背景は何か。	倉敷市では割ぐり石の取扱業者が少ない。 2025 年 10 月に打ち出された値上げは当時の需要低迷を背景に浸透しなかったが、本年に入り河川・港湾関連工事の需要が増加し、供給が限られるなかで大幅な値上げが浸透した。
質問 6	宮古島地区のアスファルト混合物がトン当たり 10,000 円の大幅な上伸となった背景は何か。	宮古島地区では、アスファルト混合物メーカー3 社が共同販売事業を行っており、価格交渉力を維持しやすい市場環境にある。また、隣接する伊良部島からの流通も可能であるが、伊良部島でもメーカーによる大幅な値上げが実施されたことから、宮古島地区で値上げが浸透し、大幅な価格上昇となった。

質問 7	中東情勢の影響でアルミの国際相場が変動するなか、アルミ地金は直近で下落している一方、アルミサッシは上伸している。このような動きとなっている背景は何か。	アルミ地金は直近で下落したものの、依然として高水準にある。原材料費や物流費の上昇を背景に、メーカーが 4～5 月に実施した価格改定の一部が浸透した。サッシ価格は、メーカーがアルミ地金の長期的な相場を見据えて設定しているため、短期的な変動には連動せず、価格反映には時間差がある。
質問 8	熊本では半導体工場向け需要を背景にコンクリート用砕石の値上げが受け入れられた。一方、大阪・神戸の砕石価格が他地区と比べて高い水準にあるのは、大都市圏におけるデータセンター建設などの需要拡大が影響しているためか。	半導体工場やデータセンターなどの大型建設プロジェクトが予定されている地区では、レディーミクストコンクリートや骨材の需給が引き締まり、価格上昇につながりやすい。一方、近畿地区では、砂利メーカーの協同組合が 2018 年から共同販売事業を実施しており、価格交渉力を維持している。このため、製造・輸送コストの上昇を販売価格へ転嫁しやすい状況にある。
質問 9	資材価格の高騰が続くなか、工事の発注量への影響について、調査会ではどのように認識しているのか。特に、市町村などの小規模工事において、資材価格の上昇が発注量の減少につながっていると考えられるか。	資材価格の高騰により発注量が減少していることを示す明確なデータは当会では把握していない。一方、調査先からは、予算が一定であるなか資材価格が上昇すれば工事量は減少するとの声が聞かれており、一定の影響があるものと考えている。
質問 10	中東情勢の影響を受けている資材には地域差があるのか。また、全国的にはどのような影響が生じているのか。	影響を受けているのは、塩ビ管や断熱材、防水材などのナフサ・原油由来資材が中心である。これらは全国大手メーカーが製造し、全国へ供給しているため、価格動向や供給状況に大きな地域差はなく、特定の地域だけで影響が生じている状況ではない。
質問 11	刊行物におけるハイフン表示や三点リーダー表示のうち、中東情勢の影響による流通量の減少を理由に価格掲載を見合わせている資材はどの程度あるのか。	シンナーや路面表示用塗料に使用する接着剤などで、中東情勢の影響による流通量の減少を受け、三点リーダー表示とした事例はあった。しかし、現在残っているハイフン表示や三点リーダー表示は、市場で使用されなくなった製品や製造中止などによるものであり、中東情勢を理由に価格掲載を見合わせている資材は基本的にない。
質問 12	入稿情報表の変動帯数について、地場産業系資材や鉄鋼等の比率を教えてほしい。	今月変動した 187 帯のうち、地場産業系は 16%（前月 9%）、鉄鋼・非鉄金属・スクラップ等の鋼材系は 14%（前月 11%）、木材・燃料油等の一般資材は 70%（前月 80%）である。

質問 13	中東情勢はなお不安定だが、供給不足に伴う需給バランスの乱れが価格に与える影響をどのように分析しているか。また、大口・小口需要家の価格差に変化はあったのか。	供給が懸念されたシンナーや塗料、塩ビ管、断熱材等は、ナフサ価格の高騰を受けたメーカー各社の値上げにより軒並み上昇した。取扱量による違いは明確で、シンナーの場合、小口需要家向けは倍になったとの声がある一方、大口需要家向けの販売価格を調査している掲載価格の変動は約 1.5 倍である。供給不足の局面では売り手市場となり、価格差が広がるとともに、値上げも浸透しやすい。
質問 14	各地区の説明で砂に関する記述が多かった。砂の価格変動が各地で見られる背景は何か。	今月は骨材関係で 72 都市が上伸し、前月の 22 都市から約 3 倍に増加した。背景には、陸送費、海送費、人件費の上昇がある。出荷量が減少するなか、採算悪化への危機感を強めるメーカーは強気の価格交渉を展開し、需要家も安定調達を優先して値上げを受け入れている。
質問 15	東京地区のガソリン価格が 8 月号で大きく下落したのはなぜか。	中東情勢による供給不安を背景に価格競争が起きにくい環境にあったが、原油価格が元の水準に戻るなど情勢が落ち着いたことで、スタンド間の競争原理が働き、価格が下落した。今後も情勢の安定が続けば、価格は平常水準に収れんしていくとみている。
質問 16	ガス管が全国一律で値上がりしているのはなぜか。	ガス管は、メーカー各社の価格改定に伴い、各地区の仕入価格にもその影響が反映されたことから、全国的な上昇となった。価格改定の表明から浸透までには、旧価格在庫の消化などにより一定の時間を要した。
審議結果	「建設物価」8 月号、「Web 建設物価」8 月号の価格動向に問題はなかった。	

以　上